

洋書輸入協会会報

VOL. 24
NO. 4

(通巻276号) 1990年4月

理事会報告

3月7日(水)

(一) 定時総会

定時総会についての会員への通知「定時総会のおしらせ」について討議し、議案は別に送ることとなった。経理問題、とくに会費の値上げについて討論した。

(二) 選挙管理委員会

規約に従い上記委員会を理事長が委嘱するため、委員を選考した。委員長に医学書院(石原隆良氏)を委嘱し、昨年の委員に新たにマテマティカ(福本理氏)と東京洋書(木原国夫氏)の両社を加えることとなった。

(三) 東京国際書籍展

広報委員長佐々木大刀夫氏(第一出版貿易)から、登録入場者9,600名、出展社:国内60社、海外221社、延入場者数約4万名であったことが報告された。宣伝が不足し、盛り上がりがいまひとつだったが、それでもまずまずの線はいったとの報告もあった。JBIAのブースについては、主要国別出版物輸入額および各大学の所在地を図示し、メンバー・リストは約1,000部を配布し、ブースとしての効果をあげたことが報告された。小林英一理事長代理の「日本の市場における事業拡大」と題する講演の聴講者は約50名で、好評であったことも報告された。

(四) シンガポール代表团との懇談会

3月1日11時頃からセミナー会場で開催されたこの懇談会にはシンガポール側から8名出席し、わが国への輸出拡大についての希望が開陳され、各出版社の宣伝物をJBIAの事務局あて送ってくることになったことが報告された。本年9月に国際書籍展が同地でひかれるので、同展への参加、参観も要請されたことも報告された。

(五) 家賃の値上げ

2月15日付けで家主の野村建設から固定資産税の23%上昇に伴ない、4月から家賃を21%上げたい旨の申入れのあったことが報告され、上げ幅をなるべく小さくするよう交渉することとなった。

(六) '90東京ブックフェア

7月19日から23日まで池袋サンシャインシティセンターホールA、B、ミプロ展示場で上記ブックフェア(実行委員長 服部敏幸氏)が開催されることが報告された。

(七) 1989年1月—12月洋書輸入通関統計表

顧問相良廣明氏の作成による上記統計表が資料として配布された。(「会報」3月号および4月号参照)

(八) その他。

理事会報告 ……………1	1989(平成元)年1~12月	海外ニュース ……………7
第一回東京ブックフェアに	洋書輸入通関統計とその分析(後編) ……3	書籍展示会のおしらせ ……………7
参加して ……………2	東京の坂と橋と文明開化(2) ……………6	広告 ……………8

第一回東京国際ブックフェアに参加して

広報委員長 佐々木 大刀夫

昨年のJBIA総会において、何十年振りかの委員会の改組が決議され、夫々正副委員長及び委員が決定して、1989年7月10日をもって、新年度の委員会が正式に発足した。

広報委員会は、この時に全く新しく設置されたもので、過去の実績又はレールは皆無であり、加えて広報という仕事自身が、非常に広範囲で漠然としており、又やり方によっては、いくら金を注ぎ込んでも足りないと言う誠に厄介で、手を着けにくい仕事である。

然しハッキリしていることは、JBIA及びその会員の仕事のP. R. ですから、P. R. のターゲットは、第一に顧客、第二に仕入先、即ち海外の出版社、第三に一般大衆、即ちマスコミと言うことになる。

このような事情をふまえて、何から手をつけるかを早急に決める必要があった。委員会としては、「先ずJBIAの存在を内外に知らしめる」ことから始めようとの結論に達した。

そこで、取り敢えず目前に迫っていたFrankfurtのBook Fairにおいて、1989年のJBIA Directoryの手持残50部を利用して、後半のAgent関係の部分を取り除いて製本して、海外の主な出版社に配布した。結果は、非常に好評で、多数の出版社の希望に応えることが出来なかった。

FrankfurtのFairが終わって間もなく、今年の2月～3月に予定されていた「第一回東京国際Book Fair '90」の主催者、Cahners Exposition JapanよりJBIAの出展に対する好意的な申し出があり、広報委員会としては、この好機逸すべからずとして、Cahnersの申し出を積極的に受けることにした。

以来、毎月委員会を開き、JBIA BoothのDisplay、会場で配布するPromotion Materialの製作、これに伴う必要経費等について討議を重ねると共に、Cahnersとも精力的な交渉を繰り返した結果、JBIAとしては、経費面で非常に負担が軽減されたことは幸であった。

JBIA BoothのDisplayは栗原副委員長（洋販）にお願いして、2枚のAttractiveなグラフを作ってもらい、Promotion Pieceとしては、皆川副委員長（HBJ）にお願いして、JBIAの「Members List」を2,000部作成して頂い

た。このListも好評で、会期中に1,000部を配布した。残り1,000部は、Frankfurtで活用する予定である。

さて、会期中は、広報委員各社が交替で、毎日3名がBoothに常駐して、Members Listの配布、お客様のEnquiryに対する説明・回答に当たった。お客様の中では、洋書輸入協会の存在を知らなかったものも相当いたし、又、協会の名前は知っていても、会員名簿は初めて見た、と言うものが殆どであった。正式の会員名簿の配布は、相当P. R. の役割を果たしたと思われる。

JBIAのBoothに来られて、名刺を置いて行かれたり、何等かのEnquiryをされた方が、約50人いました。この中には、JBIAの入会申込書を送って欲しいと言われた方が、3人含まれています。これら3人には、入会申込書用紙、規約等事務局から送ったが、現在のところ、入会申込書は一通も返送されていない。

以上、JBIAのBoothを中心に概略を述べたが、ここで、会期中、毎日開催されたセミナーについてご報告したい。Fairの最終日、3月1日の9:30a.m. から11:00まで、「How to Expand Your Business in Japanese Market」と題して、海外出版社を対象に、当協会理事長代理の小林英一氏が講演を行われた。約50名の熱心な聴衆を前に、1時間にわたって熱弁を振舞われ、特に、日本の業者が到底外国の業者の真似の出来ない特別なserviceを行っていること、日本での商売は、Person to PersonのHuman Contactを重視すること、Mark-upは、必要な経費と、Reasonable Marginを含む極内輪なものである等、数字やグラフを駆使して説明されたので、出席者は、日本の業者、業界に対して、相当理解を深めたことと思う。JBIAにとっては、非常に大きなP. R. となった。

最後に、当協会が、積極的にこのFairに参加したことは、非常に有意義であったと思うし、又いささかJBIAのP. R. の役割を果たしたのではないかと考えています。

（第一出版貿易株式会社取締役社長・理事）

（写真を5ページに掲載）

1989（平成元）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（後編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

6. 主要6ヵ国為替相場の前年比

（表9）1989年1～12月、主要6ヵ国の年間平均為替相場の前年比

通 貨	'89年間平均の 前年比	'89洋書輸入 価額の構成比	円安又は円高の 加重平均
		%	
US\$	7.55%の円安	40	3.02%の円安
Stg. £	0.95%の円高	24	0.23%の円高
D. M	0.57%の円安	11	0.06%の円安
F. FR	0.50%の円安	4	0.02%の円安
D. GL	0.27%の円安	6	0.02%の円安
S. FR	3.79%の円高	3	0.11%の円高
小 計		88	2.78%の円安
その他の国	(推定)1%の円 安	12	0.12%の円安
総 計		100	2.9%の円安

（表10）1989年12月だけの主要6ヵ国月平均為替相場の
前年比とその影響度

通 貨	'89.12月平均の 前年同月比	'89洋書輸入 価額の構成比	円安又は円高の 加重平均
	%	%	
US\$	116.07	40	6.43%の円安
Stg. £	101.64	24	0.39%の円安
D. M	117.24	11	1.90%の円安
F. FR	116.92	4	0.68%の円安
D. GL	117.11	6	1.03%の円安
S. FR	109.45	3	0.28%の円安
小 計		88	10.71%の円安
その他の国	(推定)110.00	12	1.20%の円安
総 計		100	11.91%の円安

〔分析〕

昨年は円安の印象が非常に強いが、これは米ドルに対してのもので、年間を通じ各国を加重平均してみると、（表9）のように2.9%の円安でしかない。

しかし年末近くになってからの円安の傾向は強く、12月だけをとってみると（表10）のように軒並に円安となって、加重平均すると約12%の円安である。洋書輸入業各社は、雑誌などの送金に大きな痛手を蒙っているはずである。

7. 主要国以外の状況

（表11）主要6ヵ国以外で1989年1～12月に、書籍又は新聞・雑誌のいずれかで1,000万円以上輸入されている国の一覧表

（単位 百万円）

国 名	書 籍	新聞・雑誌	計	総合順位
韓 国	395	25	420	11
中 国	391	78	469	10
台 湾	373	5	378	12
香 港	1,095	201	1,296	(注2)6
タイランド	12	1	13	25
シンガポール	367	170	537	9
インドネシア	15		15	24
イ ン ド	22	5	27	22
スウェーデン	60	12	72	20
デンマーク	21	52	73	19
アイルランド	16	72	88	17
ベ ル ギ ー	42	1	43	21
東 独	13	10	23	23
ス ペ イ ン	93	3	96	16
イ タ リ ー	186	532	718	8
ソ 連	116	51	167	13
オーストリア	39	59	98	15
カ ナ ダ	105	9	114	14
オーストラリア	61	14	75	18

（注1） 書籍には単一シート、辞・事典を含み、雑誌には週4回以上を含む。

（注2） '89は、主要6ヵ国の中の最低のスイスよりも香港の方が多かったため、順位は香港を6位とした。スイスが7位となる。

〔分析〕

近隣諸国からの輸入が増加している。香港は27%アップ、シンガポールは56%アップ、台湾は80%アップなどである。これらは、例えばMcGraw-Hill社のInternational Editionはシンガポールで印刷され、ここから輸入されている。或いは、日本の出版社からの印刷発注があれば、その納品は輸入になるなどのことを考慮しておく必要がある。

8. 1989年1～12月洋書関連商品の輸入通関統計表

(表12) 洋書関連商品別一覧

(単位 百万円)

品 名		1989 価 額	前年比
幼児用の絵本及び習画本		979	% 192
楽 譜		728	113
地図・海図	地球儀・天球儀	187	100
	製本したもの	83	252
	その他のもの	249	86
	小 計	519	102
葉 書		521	103
カレンダー	紙製又は板紙製	1,057	141
	その他のもの	70	109
	小 計	1,127	138
その他の印刷物	広告・商業用カタログなど	2,949	288
	写 真	1,508	123
	絵画・デザインなど	5,126	126
	その他のもの	10,410	139
	小 計	19,993	145

(注1) 楽譜は、印刷したものと及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか、又は挿絵を有するか有しないかを問わない。

(注2) 地図、海図その他これに類する図は、製本したもの、壁掛け用のもの、地形図及び地球儀、天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。

(注3) 葉書は、印刷したもの及び挿絵を有するものに限る。また個人のあいさつ、伝言または通知を印刷したカードを含む。なお、この品目は'87までは、「絵

葉書、クリスマスカード、その他これらに類する絵入りのカード」となっていた。

(注4) カレンダーは、カレンダーブロックを含むものとし、印刷したものに限る。

(表13) 洋書関連商品の1979比1989の成長率

(単位 百万円)

品 名	1979	1989	'79:'89
絵本	268	979	% 365
楽譜	668	728	109
地球儀など	428	187	44
地図・海図	848	332	39
絵葉書など	95	521	548
カレンダー	603	1,127	187
写真	380	1,508	397
印刷絵画・デザイン	413	5,126	1,241
その他の印刷物	3,154	10,410	330

〔分析〕

10年を通覧すると、成長商品かどうかがよく分かる。

9. 1989年1～12月、マイクロフィルムと文献情報検索用磁気テープの輸入通関統計表

(表14) マイクロフィルム

(単位 百万円)

品 名	価 額	前年比
マイクロフィルム	22	% 79

〔分析〕

マイクロフィルムが年間2,200万円とはいかにも少ない。統計洩れが多いようである。

(表15) 文献情報検索用磁気テープ

(単位 百万円)

品 名	価 額	前年比
「磁気テープ」のうち「幅が6.5ミリを超えるもの」の中で「その他のもの」	5,013	% 164

〔分析〕

この金額のすべてが「文献情報検索用」ではない。「その他のもの」すべての合計である。それにしてもこのカテゴリーは、金額が大きく、成長率が高い。

10. 書籍、新聞・雑誌の輸出について

(表16) 1989年1～12月輸出通関統計表

(単位 百万円)

分類	品名	価額	前年比	構成比
書籍	単一シートのもの	438	%	%
	辞典及び事典	230	55	
	その他のもの	29,046	96	
	小計	29,714	106	87
新聞・雑誌	1週間に4回以上発行するもの	20	100	
	新聞	10	40	
	雑誌その他の定期刊行物	4,448	106	
	小計	4,478	106	13
計		34,192	105	100

〔分析〕

輸出においても新聞の年間1,000万円は少なすぎる。

(表17) 1985～'89年、書籍・新聞・雑誌の輸出通関統計推移表

(単位 百万円)

暦年	書籍				新聞・雑誌				計			
	価額	前比	指数		価額	前比	指数		価額	前比	指数	
		%				%				%		
1985	33,357	126	100		6,007	102	100		39,364	122	100	
'86	30,782	92	92		4,704	78	78		35,486	90	90	
'87	28,834	94	86		4,570	97	76		33,404	94	85	
'88	28,454	99	85		4,228	93	70		32,682	98	83	
'89	29,714	104	89		4,478	106	75		34,192	105	87	

(表18) 書籍、新聞・雑誌の輸入と輸出の比率推移表

分類	1979 (S54)	'84 (S59)	'85 (S60)	'86 (S61)	'87 (S62)	'88 (S63)	'89 (H1)
	%	%	%	%	%	%	%
輸入	70	50	46	44	50	53	55
輸出	30	50	54	56	50	47	45

〔分析〕

'85に輸入輸出の比が逆転し、'88から再逆転してまたまた輸入額が大きくなったのであるが、'89はこの傾向が更に進んでいる。

(表19) 書籍、新聞・雑誌及び関連商品の輸入と輸出の対比表

(単位 百万円)

品名	輸入価額	輸出価額	輸入・出比率
書籍	27,181	29,174	48:52
新聞・雑誌	14,083	4,478	76:24
幼児用絵本	979	996	50:50
楽譜	728	142	84:16
絵葉書など	521	518	50:50
カレンダー	1,127	2,751	29:71
広告・商業用カタログなど	2,949	10,390	22:78
印刷絵画、デザイン、写真	6,634	404	94:6

〔分析〕

今年2月20日(火)の朝日新聞夕刊に、「売れないなあ、日本の映像ソフト」「輸出さえ100倍の入超」とあったが、洋書関連商品でも輸出と輸入の比率がこれだけさまざまである。営業の参考となろう。(以上)



第1回東京国際ブックフェア

東京の坂と橋と文明開化 (2)

白金の坂と明治学院

〔1〕明治学院の創立史話

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

萩原朔太郎は「坂のある風景は、ふしぎに浪漫的で、のすたるじやの感じをあたえるものだ」とうたっている（散文詩『坂』）。坂を訪ね歩く時、その人の心に、坂が秘めている物語を想像させずにはおかない。白金は坂の街である。桜田通りから明治学院の前を通りカーブを描きながら上りつめて、八芳園のところで目黒通りにぶつかる坂を桑原坂という。まだ古い日本家屋が残り、八芳園の森や黄檗宗の古刹「瑞聖寺」が望まれる坂である。目黒通りは日吉坂となってなだらかに下り、再び桜田通りに出会う。

さて、ここで明治学院の創立の頃の経過を探ねてみよう。『明治学院百年史』によると、同校は明治10年の東京一致神学校（明治6年横浜に開塾のブラウン塾から発展）の開校をもってその創立としている。しかし、さらにその淵源をたどるとすれば、安政6年（1859）のヘボンの神奈川上陸に求めることができる。幕府より高官の子弟の教育を依頼（その中に大村益次郎もいた）されたのが足がかりとなって、文久3年（1863）にヘボン夫人によって横浜にヘボン塾が開設された。この塾からは、林董や高橋是清などの英才が育っていく。明治3年にミス・キダーがヘボン夫人を援けて女子教育にあたることになったが、これが後に横浜フェリス女学院に発展する。ヘボン塾は明治13年に築地に移転して築地大学校と改称、明治16年には、オランダ改革派教会によって横浜に開校された先志学校と合併して東京一致英和学校となり、さらに明治19年、東京一致神学校、英知予備校（明治17年開校）と合併して、いよいよ明治学院となったのである。そして、明治20年には新築の白金校舎に移転して、今日にいたる。

創立の基盤は、米国長老派教会、米国改革派教会、スコットランド長老会で、キリスト教伝導者の養成と人材の育成を目的とし、アカデミックな雰囲気と自由な学風が旺溢していた。「……岡の上に立つ一群の建物に別れを告げた。一番高いところにある寄宿舎の塔、食堂の廊下の柱、よく行った図書館の窓、教会堂の様式と学校風の意匠とを按排してそれを外部に直立した赤煉瓦の煙筒

に結びつけたかのような灰色な木造の校堂の側面……」と島崎藤村（明治20—24年在学）は、明治学院を描写しているが、彼の自伝的小説『桜の実の熟する時』には当時の学生生活が語られ、また、いままネオゴシック様式の美しい容姿を見せる赤煉瓦の「明治学院記念館」（明治23年竣工）についても記述している。

明治学院の歴史において、例えばフェルベッキ、バラー、インブリー、ライシャワー（元駐日大使エドウィン・ライシャワーの父、哲学教授、1918年の東京女子大学の設立代表者）など、幕末、明治の日本に住みつき、近代化の推進に活躍した多くの優れた外国人の係わりを見ることができる。そしてまた、藤村のほか馬場孤蝶、戸川秋骨、賀川豊彦、佐々木邦などの逸材が生まれ、明治、あるいは、それ以後の日本の近近代精神史、人文科学の形成に大きな役割りを果たしていくことになる。

〔参考文献〕

井上久雄編 『明治維新教育史』

1984年刊 （吉川弘文館）

三好信浩著 『明治のエンジニア教育 日本とイギリスのちがいがい』

1983年刊 （中央新書）

大橋昭夫、平野日出雄著 『明治維新とあるお雇い外国人 フェルベッキの生涯』

1988刊 （新人物往来社）

望月洋子著 『ヘボンの生涯と日本語』

1987刊 （新潮選書）

Beauchamp, E.W. (Ed.)- Learning to be Japanese: selected meadings on Japanese scociety and education, 1978 (Shoe String)

Hall, I.P.- Mori Arinori. 1973 (Harvard Univ. Press)

Passin, H- Society and Education in Japan. 1983 (Kodansha International)



美しい赤煉瓦の「明治学院記念館」

海外ニュース

「ウェストビュー社売却さる」

SCS CommunicationsはこのほどWestview Pressの全株式を、同社の創立者フレデリック・A. プレーガー氏から購入した。

Westview Pressは、1975年に創立されて以来、学術書、専門書を出版してきた。昨年は290点を出版し、年間売上高は約600万ドルであった。印刷・製本工場や倉庫を所有し、従業員約90人をかかえている。

SCS Communicationsは、1989年1月に、ウォール街に長い経歴をもつステファン・C. スウィッド氏が設立した会社で、映画製作会社シネコムと雑誌「スピン」を所有している。

なお、プレーガー氏は、今後も同社の副会長、発行人、編集長として残るとのこと。このプレーガー氏は、現在75歳、第二次大戦後ニューヨークにFrederick A. Praeger Publishersを設立し、会長兼編集長であったが、これをEncyclopaedia Britannica社に売却し、1960年代はロンドンのPhaidon PublishersとPall Mall Pressの会

長をつとめ、さらにオーストリー、ドイツ、イタリアで出版社を経営した。1975年にアメリカに戻り、モーリス・ミッチェル氏とともにWestview Pressを設立した。
(PW. 3月2日号より)

「エッセルテが出版部門を売りに」

スウェーデンのコングロマリット、Esselteは、そのメディア部門を売りに出した。これにはスウェーデン最大の教科書出版社Norstedtsや世界的に知られている学術書・専門書の出版社Almqvist & Wiksell Läromedel、書店チェーンのEsselte Bokhandel、雑誌予約サービスのTidskriftscentralenなどがふくまれている。

Esselteの経営者は、出版部門だけでなく印刷部門もいっしょに売りたい模様だが、両部門いっしょでは買いにくいようである。しかし、すでにスウェーデンのBonniers, Natur och Kultur と Liber が名乗りをあげ、フランスのHachetteや西ドイツのBertelsmannも申し込みを行ったようである。売りに出された部門は、いずれも健全で利益を生んでいるため、売り値はかなり高くなりそうである。(The Bookseller, 3月2日号より)

「米国書の輸出急増」

米商務省がこのほど発表した統計によれば、1989年のアメリカの書籍輸出高は、金額では21.4%増の11億2,310万ドル、冊数では32.0%増で4億7,750万冊にのぼった。1988年にも金額で25%もの伸びを示していたが、これに引き続き大きな伸びとなった。その主な理由は、ドルがこの期間安値で安定しており、国際市場で競争力がついたためである。

逆に輸入は沈滞した。金額では前年の8億0,050万ドルから8億ドルちょうどへとわずか0.1%ダウンであるが、冊数では5億6,150万冊から4億860万冊へと27.2%も減少している。(BP Report, 3月5日号より)

—紀伊國屋書店提供—

書籍展示会のおしらせ—1990

ホンコン国際書籍展

6月22日—25日

Hong Kong International Book Fair

物理・化学から医学まで世界の科学技術に 貢献するアカデミックなジャーナルをお届けします。

◆ **Accountability in Research** (ISSN 0898-9621)

Editor-in-Chief: **Adil E. Shamoo** 1989年創刊 Volume 1 予約価¥20,000

◆ **Comments on Developmental Neurobiology** (ISSN 0896-5099)

Editor-in-Chief: **Alain Prochiantz** 1989年創刊 Volume 1 予約価¥38,000

◆ **LIT-Literature Interpretation Theory** (ISSN 0987-1243)

Editor-in-Chief: **Lee A. Jacobus** and **Regina Barreca**

1989年創刊 Volume 1 予約価¥16,000

◆ **Science & Global Security** (ISSN 0892-9882)

Editor-in-Chief: **Harold A. Feiveson** 1989年創刊 Volume 1 予約価¥30,000

 **Gordon and Breach Science Publishers**
New York • Philadelphia • London • Paris • Montreux • Tokyo • Melbourne

harwood academic publishers

Chur • London • Paris • New York • Tokyo • Melbourne



◆ **Cancer Therapy and Control** (ISSN 0896-5080)

Editor-in-Chief: **E. T. Bucovaz** 1989年創刊 Volume 1 予約価¥48,000

Regional Editor in Japan: **Tetsuo Ono**

◆ **Defence Economics** (ISSN 1043-0717)

Editor: **Keith Hartley** 1989年創刊 Volume 1 予約価¥35,000

◆ **Growth Factors** (ISSN 0897-7194)

Editor-in-Chief: **Antony Burgess** 1989年創刊 Volume 3 予約価¥48,000

Editor in Japan: **Tasuku Honjo**

◆ **Leukemia and Lymphoma** (ISSN 1042-8194)

Editor-in-Chief: **Aaron Polliack** 1889年創刊 Volume 1 予約価¥28,000

Editor-in-Japan: **A. Shibata**

▶ ジャーナルの見本誌をご希望の場合は下記宛ご請求下さい。

 **洋販**(日本洋書販売配給株式会社)教育事業部

〒169 東京都新宿区大久保3丁目14-9 Tel. (03)208-0181(代) Fax. (03)209-0288

1990年4月 通巻第276号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

〒103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920

〒530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329